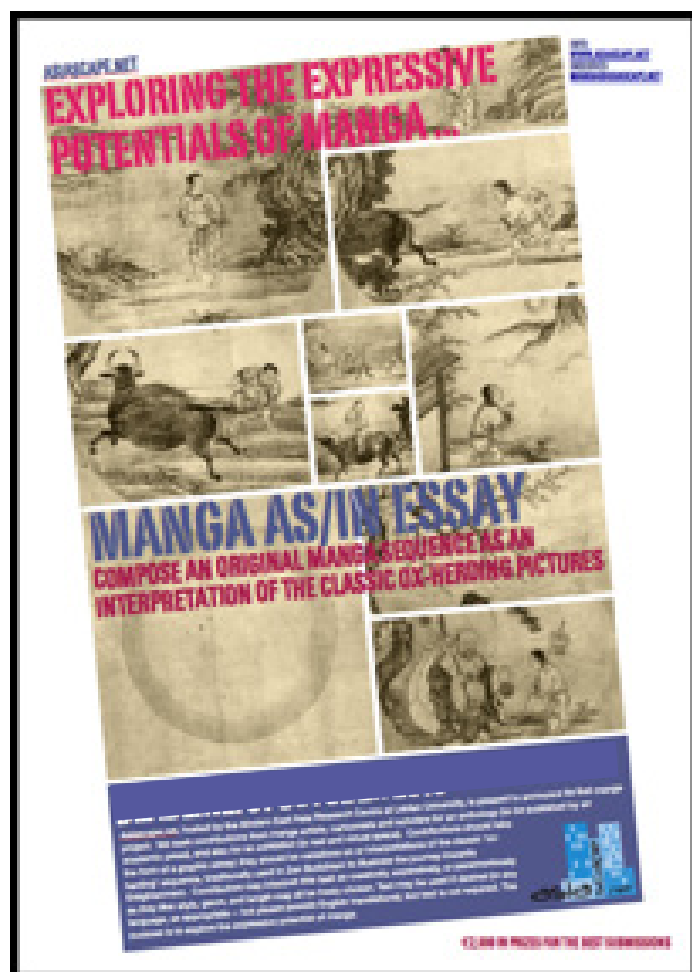




マンガのエッセイ、 エッセイのマンガ 作品募集

募集

Asiascape.netは、初の漫画プロジェクトの発表を喜ばしく思います。今回私たちは漫画家、専門家（学生を含む）による作品選集へ掲載する作品を募集行います。さらに入選作品はバーチャル、リアル双方における展覧会での作品発表が行われます。応募作品は、禅の悟りにいたる道筋を描いた”十牛図”を基にした、グラフィックエッセイです。現代版十牛図を作家独自の解釈で、壮大、創造的に、またはその真逆のアプローチで、自由に制作してください。作品のスタイル、ジャンル、長さは自由です。応募条件ではありませんが、希望であれば文章の使用も可能です。日本語での応募も可能です。このプロジェクトの目的は、漫画表現における潜在能力の探求にあります。



十牛図

十牛図（じゅうぎゅうず）は十二世紀から用いられた、禪の悟りにいたる道筋を牛を主題とした十枚の絵で表したものです。物語は様々な表現方法や技法、時に散文または詩形式（もしくは両方）の解説とともに進行します。数多くの十牛図が存在しますが、基本的な物語の進行は全てに共通し、煩惱から脱して真の悟りを開いてゆく人間の体験に基づいており、無数に存在する大乘教典の教えを、大まかなかたちで説明しています。



応募要項

▪ Asiascape Manga in/as Essay ーマンガのエッセイ、エッセイのマンガへの応募作品は、前頁で紹介した例のように、美学的観点、ジャンル、ページ数(1枚のイメージで充分であることもあれば、50ページ必要なケースもあり得る)にとらわれていないことが重要です。応募者当人、または当プロジェクトへ一石を投じるような作家の熟考と意気込みを歓迎します。そのため、しっかりと理由付けされた作品の形式、スタイルの採用が不可欠です。

▪ 長編作品は収納スペースの関係から好ましくありません。応募作品はおよそ50ページを限度とします。最低ページ数の制限はありません。

▪ カラー画像が好ましいですが必須事項ではありません。色の採用や選択は、技術的制限からではなく、作家の創造性に行ってください。

▪ 独創的な創造性にあふれるあたらしい発想のストーリー展開。特に他のメディアでは現実不可能な独自性富んだ作品が好ましいです。古典的表現については、特に作品内容との関連性が強いものを特に歓迎します。

▪ 注釈やふきだし等、文章が用いられる必要性のある内容の応募作品の場合、言語の制約はありません。日本語の場合、英訳の添付の必要はありません。英語、日本語以外の言語を使用の場合、英訳の添付、選択した言語の選択理由の説明を条件とします。

▪ 応募作品全体についての解説を、作家の意図、創造的な選択の観点から、2ページ以内にまとめ添付してください。作品応募にあたって、連絡先を含んだ履歴書の添付も必須です。

▪ 共同制作による作品も歓迎します。作業分担の詳細を明記の上ご応募ください。

▪ 原稿、デジタル形式を受け付けます。(デジタル形式の場合、おおよそその一般的な形式を受け付けますが、PDF形式が管理上最も好ましいです。) 原稿での応募の場合、応募作品の返却はいたしませんので、高品質のコピーの提出をお願いします。ページサイズは最低A4サイズです。展覧会での発表段階には、さらに大きめのサイズが好ましいです。

▪ 全ての応募作品は、出版委員会、専門家団体、プロダクション関係者によって、次にあげる評価基準のもと審査が行われます。

- 独創的な表現方法
- 表現力
- 表現様式
- 情景描写の質
- 総合的な効果

▪ 選考通過者には、応募締切6週間以内にご連絡差し上げます。上位3作品には以下の賞金が授与されます: 1位 1000ユーロ 2,3位 500ユーロ。賞金はMEARCより出資されます。応募作品の著作権はライデン大学機関Modern East Asia Research Centre (MEARC)に帰属します。応募作品は営利目的に使用されることはありません。学術的なプロジェクトであるため、作家、編集者、ライデン大学はこれに付随して報酬を受け取る事はできません。

▪ 入選作品はAsiascape.net主催のオンライン展覧会、2011年にオランダ、ハーグ市で行われる展覧会、さらに専門家による解説を含めた作品選集(学術系出版社より出版)を通して発表されます。

▪ 問い合わせ/ 応募作品送付先(PDF) : manga@asiascape.net

▪ 応募作品送付先(原稿) : Esther Truijen, Asiascape Manga Essays,
Modern East Asia Research Centre,
Leiden University,
PO Box 9515, 2300RA, Leiden.
The Netherlands

▪ 締め切り : 2010年12月1日

付録：十牛図

一．尋牛（じんぎゅう） 梅原猛の解説



心が荒れている。あばれ牛の如くに。かつて私は一匹の牛を家のあたりにつないだ。しかし、いつの間にか牛は手綱を断ち切って暴れだし、私に血みどろな傷を負わせて、遠い山に去ってしまった。荒れ狂っている牛のほえる声が私を不安にする。牛は猛り狂って田畑を荒らし、はては深い谷間に落ち込んで見事な頓死を遂げるかもしれない。私は疲れた心と、傷ついた身体に鞭打って牛を探しに出かけるのだ。

解説：失った牛を探す場面。本来の自己が内にあることをまだ知らずに、探しに出るところである。

二．見跡（けんじゃく）



牛はなかなか見つからない。私は日一日、果てしない野原を歩き回ったけれど、どこにも牛は見当たらなかった。そしてまた高い断崖絶壁をよじ登ったけれど、私が見たのは、一面に荒れ果てた岩山ばかりであった。しかし、ある秋の夕、深い夜の闇が天地をおおおうとする一瞬前、私は森の入り口で、牛の足跡を見つけたのだ。

解説：牛の足跡つまり手がかりを見つけるが、足跡を見てもそれは知識として牛の存在を知ったことにしかならない。

三．見牛（けんぎゅう）



すばやく、そして用心深くその足跡を私はつけて進んだ。そして私は正しく見た。一匹の荒れ狂っている牛の姿を。牛は怒りにもえ、私を見て襲いかかってきたけれど、かくすことのできない疲労のようなものが牛の体にただよっていることを、一瞬私は見逃さなかった。

解説：牛の声を聞いて後姿を見る。しかし、まだ牛のすべてを見たわけではない。

四. 得牛 (とくぎゅう)

今だ、私は祈りを込めて縄を投げた。わが心よ獣の眠りを眠れかし。縄は見事に命中して、牛の首に巻きついた。牛はほえ叫び、逃げようとして暴れ回ったけれど、私は牛の首に巻きついた縄を金輪際離そうとしなかった。やがて牛は精魂尽きたかのように、どっと倒れて、死んだように動かなくなりましたが、私もまた死せる牛のように疲れていた。

解説：ついに牛をみつけて手綱をつけるが、嫌がる牛を引きつけようとする状態。



得牛

五. 牧牛 (ぼくご)

手綱をひいて私は家に帰ろうとした。私はいささか得意になって、牛に言った。「暴れ牛よ、お前がどんなに暴れても、結局、おれにはかないはしまい」。牛は私のそういう言葉に反抗するかのように時々、暴れ出そうとした。しかし、その度ごとに、私はたづなをきつく引いて私の優越感を確かめた。

解説：荒れる牛を馴らして連れて帰るところ。手綱に張りつめた様子はない。ここではじめて、牛の顔が描かれる。



牧牛

六. 騎牛帰家 (きぎゅうきか)

山を越え、野を越え、牛と私は村里の近くにきた。今まで雲に覆われた月も、そのまろやかな姿を雲の間から見せ始めた。牛はおとなしくなり、私は牛の背の上で心も軽く、歌を歌ったのである。楽しきかな人生である。

解説：牛に乗り笛を吹きながら家に帰る。牛の表情は明るく足どりも軽い。牛と童子は一体である。



騎牛
帰家

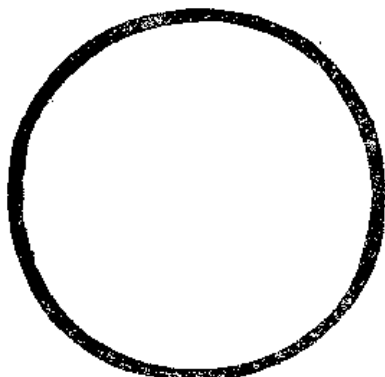
七. 忘牛存人 (ぼうぎゅうそんにん)

家へ帰って、私は牛をつなごうとすると、ふっと、牛は私の手から消えたのである。牛は確かに今しがた私の前にあったはずなのに、忽然として牛は失せた。巨大な牛が見る見るうちに気化し、ひとつの映像のようになって、すっぽりとわたしの心の中にすいこまれるように消え失せたのである。それは一瞬の幻想のようでもあった。あたりに無限の静けさが漂い、私は冷たい月光に照らされて、独り己の心を見入ったのである。

解説：家に帰って牛の事を忘れ牛もどこかへ行ってしまう。牛を忘れ去る、つまり悟ったという気持ち自体を忘れた境地である。



忘牛
存人



八 人牛
忘

八. 人牛俱忘 (にんぎゅうぐぼう)

また、不可思議なことが起こった。心をじっと見入っているうちに、私自身が消失してしまったのである。私と私を取り巻く世界もすっかり消え果て、世界は白い霧のようなものに変化してしまった。私もまた白い霧のようであり、私が世界であり、世界が私でもあった。透明で、清潔な完全な真空の世界で私の心も真空な 満足に酔っていた。

解説：牛も人も忘れ去られている。迷いも悟りも超越した時、そこには絶対的な空がある。



九 返本
還源

九. 返本還源 (へんぽんげんげん)

しかし再び、あの真空の世界に草が生え、花が咲き、鳥は歌い、春が来るのである。すべてはもとのままのようであり、生は、希望の歌を高らかに歌い始めているではないか。柳の緑の鮮やかさ、紅の花の美しさ、世界は改めて無限に豊かな色に輝きわたっているではないか。

解説：ここには童子も牛も描かれていない。悟る前とおなじく水は流れ花は美しく咲き誇る。



耶和辛行夏
實名寺野
西興利権

十 入
垂手

十. 入てん垂手 (にゅうてんすいしゅ)

このように再び、本にかえり、万物が豊かな色を示す世界に、私は何事も起こらなかったかの如く帰ってゆく。脚を現し、腹をむきだし、一見愚者の如くに、町にさすらい歩き、物にあえば物に親しみ、人にあえば人と笑い、見知らぬ人の間で、慈悲を世界にふりまいて生きている。

解説：童子が対面しているのは、悟りを得た老人である。悟りを得たものは、広くそれを伝えなければならないことをあらわしている。しかし老人と語る童子の姿は、最初の見跡の図に見える姿と同じである。



アジアスケープドットネットは、2007年9月に設立された東アジアコンテンポラリーメディアセンター(CEAMC)の本拠地です。サイバーカルチャー(ニューメディア、新旧メディアが収束して生み出すコンバージェンスカルチャー、ゲーム、またそれに関連したおたく文化など)、アニマンガ(アニメ+マンガ)の急速な発展に呼応する新しい国際的な研究の試みを行っています。日本、中国、韓国の東アジア諸国はこの分野の発展の中心的役割を担っており、アジアスケープは、メディア芸術を、可変的、革新的な世界全体の関心項目、東アジア諸国の文化的財産ととらえ、それらの重要性を研究する機会の提供を通じた発展寄与を目指しています。

この分野においては、様々な領域で国際的に成長する研究者の団体が存在します。アジアスケープは、独自の研究方法に加え、国際舞台の第一線で活躍する研究者によって組織された顧問委員会を通じ、分野の発展状況の協議、研究成果を、このホームページを含めた、様々なメディアを通して発信し、研究機関と、急速に発展するサイバーカルチャーの指針提供のための情報ハブとしての役割を果たしています。

アジアスケープはオランダ、ライデン大学を拠点にし、the Netherlands Organisation for Scientific Research (NWO), 東芝国際交流財団(TIFO), Modern East Asia Research Centre (MEARC)の好意により設立されました。MEARCはアジアスケープのホストでもあります(www.mearc.eu)。



Universiteit Leiden